

令和7年度以降 大学の卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

I. 大学の卒業の認定に関する方針

本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の理念に基づき「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与する。

- ・ 専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力

専門分野の知識や技能の修得、専門分野に対する分析・考察・提案能力の修得、専門分野に対するプレゼンテーション能力の修得、キャリアデザイン能力の修得

【学科教育目標：I 以降】

- ・ 地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力

地域および地球規模の視点から社会の諸問題を発見する能力の修得、社会の諸問題を調査・分析する能力の修得、問題解決能力の修得

【学科教育目標：G】

- ・ 世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力

自己啓発・自己管理能力の修得、多様な価値や教養の修得、健康や体力の自己管理能力の修得、倫理的判断力の修得、外国語を含む様々なコミュニケーション能力の修得、基礎的な数理に基づく分析力や論理思考の修得、図表を用いたコミュニケーション能力の修得、コンピュータリテラシー

【学科教育目標：A～F、H】

I-1. 情報デザイン学部 経営情報学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、経営情報学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、広く社会の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

経営情報学科で何を学ぶか、経営情報とは何かの概念を得る。経営情報学科プログラムの学習・教育目標を把握し、自ら履修計画および学習計画を立案できる。また、ビジネス業界の動向や就職環境などを把握して、自らの適性と希望に応じた将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

J マネジメント能力

データサイエンスの基礎的な手法を修得するとともに、事業のマネジメントに関する広範な知識と一般原則を理解できる。特に、SDGs（持続可能な開発目標）などグローバルな視点から、事業のありかたについての視点を持つことができる。

K マーケティング能力

顧客ニーズを起点とするマーケティングの用語と考え方を理解した上で、ビックデータによる市場動向を把握する手法、およびそれを解析する手法を修得するとともに、実際の社会事例において、それらの手法を活用した分析と提案ができる。

L 金融能力

経営状態を表現するための会計および資金の調達と運用・投資を行うためのファイナンスに関する知

識を修得することにより、財務諸表を見てケース企業の経営状態を把握すること、さらには資本調達計画の立案など、お金に関する意思決定をすることができる。

M 情報デザイン能力

情報技術を活用するために、コンピュータ、データベース、インターネットとそのサービスに関する基礎知識を修得するとともに、複雑な事象やシステムのモデル化技法と解決技法を修得する。これらの知識・技法を用いて、課題解決のためにIT活用に関する提案や、ITシステムの設計とプログラミングを行うことができる。

N 社会応用実践能力

ビジネス上のさまざまな問題に対して、問題解決の過程に基づき解決案を創出し成果を得ることができる。また理論的なアイデアを具体的な計画やレポートで明確に表現することができ、そのアイデアの有効性を実証するための調査や実施項目を計画し、実行に移して成果を上げ、以上のすべてを適切に説明することができる。

I-2. 情報デザイン学部 環境デザイン創成学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、環境デザイン創成学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、広く社会の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

環境デザイン創成学科において何を学ぶか、環境デザイン創成とは何を目指しているのかなどを理解する。環境デザイン創成学科教育プログラムの学習・教育目標を把握し、自ら履修計画および学習計画を立案できる。また、社会動向や就職環境などを把握して、自らの適性と希望に応じた将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

J 現状を敷衍して先を見通す基礎能力

社会や環境の現状を把握して基本的なリテラシーである各種の調査法やデータ分析などを理解している。また、様々なテクノロジーが社会や環境に対して果たしている役割や影響を基本的な素養として理解する。それらの理解に基づいて、現状を外挿した将来を予想することができる。

K 地域や社会の全体像を描いて構想する基礎能力

過疎化等の地域課題から気候変動等の地球規模課題までの人間と社会と自然を取り巻く環境に関する知識と構造を理解し、さらに地域や社会の様々な環境的要因を考慮して理想的な将来像を描くランドデザインを作成することができる。

L コミュニケーションを介して協業する基礎能力

的確な言葉やグラフィックを用いて、自らの考えを相手に効果的に伝える手法を理解して実践することができる。さらに、地域や社会の利害関係者、あるいは様々な背景や文化を有する人たちに対して、傾聴や対話によって相手を理解して、建設的なコミュニケーションをとることができる。

M 社会応用実践能力

修得した基礎能力を応用して、地域や社会の課題を発見して多様な社会課題の中で自らが取り組むべき課題を自分の意志で選択して、その課題を解決するための計画を立てて、解決に導くための行動を取ることができる。さらに、地域や社会に有用な価値を創出するイノベーションの種を見つけ出し、イノベーションを起こす行動に結びつけることができる。また、地域や社会の様々な規模に至る課題に対して、問題解決の過程に基づき解決案を創出し成果を得ることができる。また理論的なアイデアを具体的な計画やレポートで明確に表現することができ、そのアイデアの有効性を実証するための調査や実施項目を計画し、実行に移して成果を上げることができる。以上のすべてを適切に説明することができる。

I-3. メディア情報学部 メディア情報学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、メディア情報学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、広く社会の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

メディア情報に関する産業界の動向、求められる人物像、就職環境などを把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

J 情報技術の基礎能力

プログラミング、ITシステム、AI、データサイエンス、画像・音響情報処理などの情報技術の基礎的な知識と技能を修得しそれらを活用できる。

K ネットワークデザイン能力

コンピュータネットワーク、クラウド、モバイル技術などのメディアテクノロジーに関する知識・技術を修得しそれらを活用できる。

L アプリケーション開発能力

XR(VR/AR/MR)コンテンツやWebコンテンツやゲームコンテンツ、モバイルアプリケーションなどをデザインし制作できる。

M コンテンツ制作のための基盤能力

メディアコンテンツをデザインするため、その背景となる社会文化学、生理学、感性工学など基礎的

知識を修得し、実際のコンテンツ制作へ応用できる。

N メディアコンテンツのデザイン能力

CG、映像、音楽、Web、XR(VR/MR/AR)などのメディアコンテンツをデザインし制作するための知識・技術を修得し活用できる。

O プロジェクト推進能力

地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、新しい価値をもたらす課題解決のためにメディアテクノロジーとメディアデザインの二つの領域の専門知識・技術の修得を基本にし、それらを統合的、実践的に結びつけ、コンテンツ、サービス、システムなどを論理的に制作し、評価できる。

I-4. メディア情報学部 心理情報デザイン学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、心理情報デザイン学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、広く社会の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

実社会において心理学の知識が生かされる場面を理解し、社会の動向、求められる人物像、就職環境などを把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

J 心の基礎的理解力

心について蓄積されてきた知見を理解し、そこから心のはたらきの理解や検討を進めるための枠組み・モデルを構築することができる。

K 研究計画立案・実施・データ分析能力

心のはたらきや心のしくみを明らかにするために、観察・面接・調査・実験といった手法を用いて適切に研究を計画し、それを精緻に実施し、種々のデータを分析するために必要な情報技術、統計技法を身に付け適切に実施することができる。

L 心の理解と産業的応用実践力

心とそのはたらき、しくみに関する知識を、ものづくり、ことづくり、ひとづくりに活用するための方法を知り、それを社会や産業における実装を進めることができる。

M 心の理解と臨床的応用実践力

医療・教育・福祉・産業・司法といった領域における心のはたらきについて理解し、心理アセスメント、心理的援助、心理教育といった臨床的実践のための技術を身につけ、その実践のための基礎を身につけている。

I -5. 情報理工学部 情報工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、情報工学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

情報系産業の現状、情報技術者に必要な能力について学び、関連する能力を向上させるとともに、自分の将来像を設定し、それに必要な能力の修得状況を自らチェックし補完することができる。

J 情報システムの基本構成説明能力および基本要素操作能力

情報工学全般を概観する導入教育に引き続き、情報の表現、加工、蓄積、伝達の基本原理、コンピュータおよびネットワークシステムの実際と設計法の基礎を学び、コンピュータおよびネットワークの基本構造を説明でき、種々の数表現、論理関数と回路、簡単な機械命令を自在に使うことができる。

K プログラミングとソフトウェア開発能力

Python、JAVA、C、SQL等構造が異なる複数のプログラミング言語を使い分けてソフトウェアを記述する基礎的能力を修得する。さらに要求分析/仕様記述/プロジェクト管理などソフトウェア開発のための技術を修得し、小規模なソフトウェアの設計・開発ができる。

L 情報処理環境の機能設定・運用能力

オペレーティングシステムの機能、プログラミング環境、形式言語とコンパイラの仕組み、計算処

理実行形式、通信処理の実際について学び、情報システム開発の基礎的能力を身につけ、Windows系・Unix系のOSの機能を説明でき、種々の機能設定を自在に行うことができる。

M 情報処理技法の設計と評価能力

データ構造とアルゴリズム、グラフとアルゴリズム、確率・統計、知識情報処理、学習理論の基礎を学び、自然言語処理やAIシステムなどに適用可能な各種情報処理技法を設計して効率を評価することができる。

N 情報・計算に関する形式的記述と論理的思考能力

情報工学の基礎となる情報と計算の基本原則を学び、論理的、形式的な思考能力を身につけ、集合、整数、代数系、情報量の基礎的事項を説明でき、符号化および暗号化の効率を評価することができる。また、情報セキュリティに関する技術、およびブロックチェーンを利用したアプリケーション作成法について学ぶ。

O ハードウェア・ソフトウェア・IoTの設計・製作能力

組み込みシステム、ネットワーク、モバイルソフトウェアの構築を通して、ハードウェア・ソフトウェア設計の基礎的能力を身につけ、実験・演習の過程で生じる問題を多面的観点から解決し、自分のアイデアを適確にまとめることができる。

P 情報システムの設計開発能力とプロジェクト遂行能力

情報工学関連の安全・危機管理、プロジェクトデザインⅢ活動領域プログラムの概要を学ぶ。次いで、プロジェクトデザイン教育の最終課題として、各自が既存技術の調査、課題の発見、問題解決の方法・手順の設定、プロトタイプの試作・評価を行い、自主的かつ継続的な情報システム開発能力を身につけ、具体的な研究開発の課題を自ら発見し、課題解決へのプロセスを完遂することができる。

Q 分散システムの設計・開発能力

プロセス間通信などの基本的な通信方式、アーキテクチャ／ミドルウェアなどのプラットフォーム技術を学び、ネットワーク接続された分散システムおよびアプリケーションの設計・開発ができる。また、仮想化技術を学ぶと共に、それらを利用したクラウドシステムの構築について学ぶ。

R メディア情報処理システムの設計・開発能力

画像情報処理、コンピュータグラフィックス、パターン認識、データサイエンスなどを学び、画像、映像、幾何データ、音声、文書などのメディア情報処理システムの設計・開発ができる。また、XR（クロスリアリティ）を活用して、さまざまシミュレーションを実現する手法について学ぶ。

I-6. 情報理工学部 知能情報システム学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、知能情報システム学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（理工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

情報系産業の現状、情報技術者に必要な能力について学び、関連する能力を向上させるとともに、自分の将来像を設定し、それに必要な能力の修得状況を自らチェックし補完することができる。

J 情報システムの基本構成説明能力および基本要素操作能力

情報工学全般を概観する導入教育に引き続き、情報の表現、加工、蓄積、伝達の基本原理、コンピュータおよびネットワークシステムの実際と設計法の基礎を学び、コンピュータおよびネットワークの基本構造を説明でき、種々の数表現、論理関数と回路、簡単な機械命令を自在に使うことができる。

K 知能情報システムプログラミングとソフトウェア開発能力

Python、JAVA、C、SQL等構造が異なる複数のプログラミング言語を使い分けてソフトウェアを記述する基礎的能力を修得する。さらに人工知能・データサイエンスに関するソフトウェア開発のための技術を修得し、小規模なソフトウェアの設計・開発ができる。

L 情報処理環境の機能設定・運用能力

オペレーティングシステムの機能、プログラミング環境、形式言語とコンパイラの仕組み、計算処

理実行形式、通信処理の実際について学び、情報システム開発の基礎的能力を身につけ、Windows系・Unix系のOSの機能を説明でき、種々の機能設定を自在に行うことができる。

M 知能情報システムの処理技法の設計と評価能力

データ構造とアルゴリズム、グラフとアルゴリズム、確率・統計、知識情報処理、学習理論の基礎を学び、自然言語処理やAIシステムなどに適用可能な各種情報処理技法を設計して効率を評価することができる。また、量子コンピューティングの基礎とそこで動作するプログラミングについて学ぶ。

N 情報・計算に関する形式的記述と論理的思考能力

情報工学の基礎となる情報と計算の基本原則を学び、論理的、形式的な思考能力を身につけ、集合、整数、代数系、情報量の基礎的事項を説明でき、符号化および暗号化の効率を評価することができる。また、情報セキュリティに関する技術、およびブロックチェーンを利用したアプリケーション作成法について学ぶ。

O 知能情報システム向けハードウェア・ソフトウェアの設計・製作能力

組込みシステム、ネットワーク、モバイルソフトウェアの構築を通して、ハードウェア・ソフトウェア設計の基礎的能力を身につけ、実験・演習の過程で生じる問題を多面的観点から解決し、自分のアイデアを適確にまとめることができる。

P 情報システムの設計開発能力とプロジェクト遂行能力

情報工学関連の安全・危機管理、プロジェクトデザインⅢ活動領域プログラムの概要を学ぶ。次いで、プロジェクトデザイン教育の最終課題として、各自が既存技術の調査、課題の発見、問題解決の方法・手順の設定、プロトタイプの試作・評価を行い、自主的かつ継続的な情報システム開発能力を身につけ、具体的な研究開発の課題を自ら発見し、課題解決へのプロセスを完遂することができる。

Q 分散システムの設計・開発能力

プロセス間通信などの基本的な通信方式、アーキテクチャ／ミドルウェアなどのプラットフォーム技術を学び、ネットワーク接続された分散システムおよびアプリケーションの設計・開発ができる。また、仮想化技術を学ぶと共に、それらを利用したクラウドシステムの構築について学ぶ。

R メディア情報処理システムの設計・開発能力

画像情報処理、コンピュータグラフィックス、パターン認識、データサイエンスなどを学び、画像、映像、幾何データ、音声、文書などのメディア情報処理システムの設計・開発ができる。また、XR（クロスリアリティ）を活用して、さまざまシミュレーションを実現する手法について学ぶ。

I-7. 情報理工学部 ロボティクス学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、ロボティクス学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I 自ら学びキャリアデザインできる能力

情報工学、電気工学、機械工学とその周辺分野を横断的に活躍できるロボティクス技術者として、自らの修学計画を立案し実行することができ、デジタル・グリーン分野等、専門領域に留まらず、広く産業界の動向や課題、来るべき新たな社会において求められる技術者像や専門的能力に深く関心を持って自らのあるべき姿と進むべき方向性を見出すことができる能力を養う。

J 情報技術および知能化技術の修得と応用能力

プログラミング言語の基本やアルゴリズム、データ構造を理解し、機械システムやロボットを制御するためのプログラミング技術を修得する。さらに、機械学習、AI技術を修得し、様々なセンサ情報に基づいたロボットの知能化を実現できる能力を養う。

K 電気・電子工学の専門知識の修得と応用能力

電気・電子工学の専門知識を修得し、ロボットを制御するためのモータ駆動回路、フィルタ回路等を設計できる能力を養う。

L 計測・制御工学の専門知識の修得と応用能力

計測・制御工学の専門知識を修得し、センサ、アクチュエータ、信号処理、フィードバックといっ

た概念を理解し、システムの様々な特性を解析、評価する技術を修得し、制御系を設計できる能力を養う。

M 機械工学の専門知識の修得と応用能力

機械力学、材料力学、熱・流体力学の専門知識を修得し、ロボットの機構設計や運動解析に応用できる能力を養う。

N ものづくり技術の修得と実践能力

システム設計・製作に必要な機械システムやロボットを構成する要素技術を理解し、設計・製図技術を修得する。さらに、ロボットの設計・製作を通して、機械設計や機械加工に係る知識や技術を実践的に学び、ものづくりの能力を養う。

O システム統合化能力およびプロジェクト遂行能力

多様な社会における問題を自ら発見し、修得した知識と技術を統合して解決する能力、およびイノベーションを実現できる能力を養う。また、実践的な課題にチームで取り組むことで、コミュニケーション能力を高め、課題解決を実現するためのプロジェクト遂行能力を養う。

I-8. バイオ・化学部 環境・応用化学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、環境・応用化学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（理工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I 課題発見・解決能力、自己開発・キャリアデザイン能力

現代社会に広く存在する課題を発見し、専門知識を活用して、課題解決策を提案することができる。自分に適した学習・進路の目標を設定することができ、これらの目標を達成するための準備・対策を自主的かつ意欲的に取り組むことで、主体的かつ自律的に目標を達成することができる。

J 理工学リテラシー

環境・応用化学分野をはじめとする理工学全般の学習を必要に応じて自力で進めることができる。学習、実験、研究においてコンピュータを有効に活用することができ、報告書等を理工学分野の文書の基本様式に則り作成することができる。安全のための基本動作を習得し、十分に安全に配慮しながら実験等を進めることができる。

K 化学に関する専門基礎能力

環境・応用化学に関する知識の修得を自ら行い、実験・実習・演習、プロジェクト活動等に活用することができる。定性・定量分析、構造解析等の化学分析において適切な分析方法を選択・設計できる。文献に基づいて物質を合成し、性質を評価することができる。化

学プロセスの設計・管理を行うことができる。グローバルな視野と環境化学の知識に基づき、地球環境・生活環境を保全するための方策を考えることができる。

L 環境・応用化学における専門的課題解決能力

環境・応用化学とその関連分野における課題に対して、調査、実験の計画、準備、実施、解析、考察、報告の一連の流れを経て、解決策を提案することができる。課題解決のために、主体的、自律的に学習を継続することができ、コミュニケーション、プレゼンテーションを的確に行うことができる。

I-9. バイオ・化学部 生命・応用バイオ学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、生命・応用バイオ学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（理工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

自己の啓発を継続することにより、自己管理能力を高め、自己を実現することができるとともに、将来の進路を開拓していくための行動指針を設計することができる。

J 生命科学基礎能力

生命現象を支える基本単位である細胞や生体分子の構造と機能に関する知識を理解し、それらを生み出す仕組みや情報の流れを理解することができる。また、基礎的な安全と倫理について理解し、事象に付随するリスクや倫理的問題を発見したり、問題解決策を立案したりすることができる。

K バイオ工学基礎能力

生物学、生理学、生化学、遺伝学などの生命科学に関する基礎知識を理解し、自然現象の摂理を科学的・論理的に思考できるとともに、応用バイオに関する専門知識の修得や実験・演習を行うことができる。

L バイオ工学技術応用能力

生物の持つ構造や機能を模倣することによって、新たな機能分子や機能の仕組みを生み出すことが可能なバイオ工学技術を理解し、その手法を活用することができる。

M 人間科学基礎能力

人体の機能、感覚や認知、行動の仕組み、さらに動物の行動に関する基礎知識を修得し、それらを統合している脳の情報処理機構の基礎を理解することができる。

N 生命現象解析能力

生命現象を対象とした各種の計測とそのデータ解析の基礎と応用を理解するとともに、医療や福祉を支える工学技術を活用することができる。

O 生命科学解析能力

生化学実験、微生物実験、生理学実験、分子生物学実験、遺伝子工学実験、有機化学実験などの実験技術を修得するとともに、実験方法の原理を理解し、実験結果に基づいた考察を行うことができる。

P 問題解決実践能力

基礎科目および専門科目で学んだ科学と技術を実験や実習、プロジェクトデザインⅢを通してさらに深め、方法論の理解や問題解決を自主的に実践できる。

I-10. 工学部 機械工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、機械工学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

機械工学に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを把握しながら将来の進路を展望した上で、機械や機械システム、機械工学に関する基本的な概念を修得できる。また、金沢工業大学および機械工学科それぞれのディプロマポリシーを把握し、機械工学科での学修方法や環境を理解することを通じて、自らの修学プランを立案できるとともに、自らの進むべき方向を決定できる。

J 設計基礎能力

設計の基本原理や規則および各種機械要素の機構や機能などに関する基礎的な知識を修得し、これらを機械および機械システムの設計に適用できる。

K 製造基礎能力

機械材料、熱処理、機械加工などに関する基礎的な知識を修得し、技術的要求仕様を満たしながら、効率的に製造できる加工法や材料およびその改質方法などを選択できる。

L コンピュータ援用能力

エンジニアリングシミュレーション・ソフトウェアの理論と使用法を理解し、設計から製造に至

る様々な過程における工学的諸問題の解決にそれを適用できる。

M 力学应用能力

四力学（機械力学、材料力学、熱力学、流体力学）および電気基礎学などを修得し、これらを機械や機械システムの設計に応用できる。

N 専門統合化能力

機械工学科における学修から得られるすべての専門知識や能力を統合・発展させ、それを工学的諸問題の解決に適用できる。

O エンジニアリングデザイン能力

様々な工学的諸問題に対し、それを解決に導くためのアイデアを創出し、そのアイデアをレポートなどで明確に表現できる。さらに、その有効性を実証するための設計・試作や実験、並びに理論検証を計画・実行し、その結果を分析することで、一連の成果を得ることができる。

P 専門的な実験能力とデータ解析能力

実験や演習を通じて専門知識をより深く修得し、それらを検証できる。また、実験装置を適切に使用して必要なデータを計測・解析し、その結果や考察をレポートにまとめ、成果を発表することができる。

I-11. 工学部 先進機械システム工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、先進機械システム工学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

機械工学に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを把握しながら将来の進路を展望した上で、機械や機械システム、機械工学に関する基本的な概念を修得できる。また、金沢工業大学および機械工学科それぞれのディプロマポリシーを把握し、機械工学科での学修方法や環境を理解することを通じて、自らの修学プランを立案できるとともに、自らの進むべき方向を決定できる。

J 機械システム設計能力

設計の基本原理や規則および各種機械要素の機構や機能などに関する基礎的な知識を修得し、これらを機械および機械システムの設計に適用できる。

K 生産基礎・応用能力

切削加工、特殊加工、機械材料、熱処理などに関する基礎的な知識を修得し、技術的要求仕様を満たしながら、効率的に製造できる加工法や材料およびその改質方法などを選択できる。さらに、製造技術の効率化を図るためのデジタルテクノロジーを活用することができる。

L コンピュータ援用能力

エンジニアリングシミュレーション・ソフトウェアの理論と使用法を理解し、設計から製造に至る様々な過程における工学的諸問題の解決にそれを適用できる。

M 力学応用能力

四力学（機械力学、材料力学、熱力学、流体力学）および電気基礎学や制御工学などを修得し、これらを機械や機械システムの設計に応用できる。

N 専門統合化能力

先進機械システム工学科における学修から得られるすべての専門知識や能力を統合・発展させ、それを工学的諸問題の解決に適用できる。

O エンジニアリングデザイン能力

様々な工学的諸問題に対し、それを解決に導くためのアイデアを創出し、そのアイデアをレポートなどで明確に表現できる。さらに、その有効性を実証するための設計・試作や実験、並びに理論検証を計画・実行し、その結果を分析することで、一連の成果を得ることができる。

P 実験手法・データ解析に関する能力

実験や演習を通じて専門知識をより深く修得し、それらを検証できる。また、実験装置を適切に使用して必要なデータを計測・解析し、その結果や考察をレポートにまとめ、成果を発表することができる。

I-12. 工学部 航空宇宙工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、航空宇宙工学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

航空宇宙工学に関する産業界の動向、求められる技術者像、職場環境などを把握して、技術者としての将来像を創造することができる。

J 設計・製造基礎能力

実際の機械や機構に触れて機械というものを理解した上で、設計製図の基礎とCADを用いた現代設計技術を学習し、機械要素の設計を行い、デジタルデータを活用したモノ作りを実践することができる。

K 力学の基礎知識の修得と専門分野への応用能力

材料力学、機械力学、熱力学、流体力学の四力学とその関連分野について学習して機械工学の基礎的知識を修得し、これらの知識を航空宇宙工学の専門分野に対して具体的に応用することができる。

L 技術者としての自主学習能力

航空宇宙工学の主要分野（空力、構造、装備、制御、エンジン）の概要を知り、それら工学分野の調和の上で成立する航空機および宇宙機の設計・製造プロセスを理解した上で、必要な知識・

技能を自主的かつ継続的に修得することができる。

M 数値シミュレーション能力

コンピュータによるシミュレーション技術を修得し、航空宇宙工学の諸問題を解決する手段として活用することができる。

N 専門知識の実践能力

航空宇宙工学全般にわたる専門知識や解析手法を実験・演習を通して身につけることができる。

O 工学設計能力

身近な問題についての設計過程を経験することによって、具体的な航空機および宇宙機の設計や航空宇宙工学理論の応用、航空機および宇宙機に関連する実現象の評価等を含め、実現可能なものを設計・製作・提案することのできる能力を身につけ、それを応用することができる。

I-13. 工学部 電気エネルギーシステム工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、電気エネルギーシステム工学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

電気エネルギーシステム工学分野に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを正確に把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

J 電気電子工学基礎能力

電気電子工学分野に関連する基礎的な数学を学び、電気回路・電気磁気学・電子回路などの電気の基礎知識を修得し、物理的・数学的考察により、具体的な問題に適用できる。

K プログラミング・制御工学基礎能力

電気電子工学に関わるプログラミング・制御についての基礎知識を修得し、実際にプログラミング・制御を行うことができる。

L 電気エネルギーシステム工学実践能力

電気エネルギーシステム工学に関わる計測・実験についての基礎知識を修得し、実際に測定・解析を行うことができる。

M 電気エネルギーシステム工学応用能力

電気エネルギーシステム及びそれを構成する機器並びにそれらを支える材料に関する基礎

知識を修得し、それらを具体的に活用できる。

N 工学統合能力

電気エネルギーシステム工学分野における新しい課題を自らが提案し、自らの知識・技術を用いてその課題を解決できる能力、および、電気エネルギーシステム工学以外の分野にも目を向け、創造的な発想に向けて挑戦できる。

I-14. 工学部 電子情報システム工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、電子情報システム工学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

電子情報システム工学分野に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを正確に把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

J 電気電子工学基礎能力

電気電子工学分野に関連する基礎的な数学を学び、電気回路・電気磁気学・電子回路などの電気の基礎知識を修得し、物理的・数学的考察により、具体的な問題に適用できる。

K プログラミング・制御工学基礎能力

電気電子工学に関わるプログラミング・制御についての基礎知識を修得し、実際にプログラミング・制御を行うことができる。

L 電子情報システム工学実践能力

電子情報システム工学に関わる計測・実験についての基礎知識を修得し、実際に測定・解析を行うことができる。

M 電子情報システム工学応用能力

半導体エレクトロニクス技術とそれを用いた情報通信システムや音響・映像に関する基礎

知識を修得し、それらを具体的に活用できる。

N 工学統合能力

電子情報システム工学分野における新しい課題を自らが提案し、自らの知識・技術を用いてその課題を解決できる能力、および、電子情報システム工学以外の分野にも目を向け、創造的な発想に向けて挑戦できる。

I-15. 工学部 環境土木工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、環境土木工学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I 環境土木工学技術者に向けてのキャリアデザイン・自己形成能力

講義、フィールド見学、社会人による講演などさまざまなアプローチにより、業種および職種が多岐にわたる建設業界を学び理解することができる。さらに環境土木工学の技術者になるための自己のキャリアパスを描くことで自己形成能力を身につけることができる。

J 構造物の設計・施工・維持管理に関する基礎的能力

構造力学、コンクリート工学など構造物の基礎を学び、構造物の設計・施工・維持管理に関する基礎的能力を身につけることができる。

K 自然環境の活用に関する基礎的能力

土質力学、水理学の基礎を学び、自然環境の活用に関する基礎的能力を身につけることができる。

L 空間情報を計測・分析・評価する基礎的能力

情報通信工学を活用した空間情報工学・衛星測位など最新の計測手法を学び、環境情報を処理・解析および評価することができる。

M 環境土木工学の統合化能力

環境土木工学の基礎知識を統合化した環境技術・防災技術・地域計画を学び、安全・安心で持続性のある地域環境を構築し運営できる能力を身につけることができる。

I-16. 建築学部 建築学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、建築学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

建築関連分野における実社会の動向を理解し、大学院進学も含めて将来の進路を幅広く展望した上で、自らの進むべき方向を決定することができる。

J 建築エンジニアリングの基礎となる建築学全般の基礎的能力

建築エンジニアリングの基礎として求められる、安全性にかかわる建築構造、快適さや健康にかかわる建築環境、使いやすさや美しさにかかわる建築計画、の三つの領域を主に学ぶことにより、建築に対する理解を深めることができる。

K 建築図面・文章等の基礎的表現能力

建築計画・建築構造・建築環境などで学んだ、建築や地域に求められる基本的な内容を、図面や文章等を使つて的確に表現することができる。

L 建築設計・計画に関わる基礎的能力

使いやすく美しい建築を実現するために、建築空間の用途に応じた計画・構成・意匠を理解することができる。

M 都市デザイン・まちづくりに関わる基礎的能力

都市や地域を形成する建築単体やその集合体としての建築群の役割や特性を、歴史的な変遷を含めて理解することができる。

N 建築生産に関わる能力

建築構法および材料の特徴を理解することができ、安全で快適な建築空間を実現するために合理的な施工方法やそれに関わる各種法令について理解し、持続可能な建築の計画・設計を行うことができる。

O 建築・都市の環境・設備・GXに関わる能力

快適で健康的な建築を実現するために、建築の内外に形成される環境と人間との関係性を理解することができる。建築・都市における環境問題への対応をGX（グリーントランスフォーメーション）として捉え、その考え方を理解することができる。さらに、建築環境・設備・GXの知識を活かし、快適な空間を計画することができる。

P 建築構造に関わる能力

建築を支える構造の特徴を力学的観点から理解することができ、安全な建築を実現するために構造種別に対応した設計の考え方やそれらの方法を理解し、建築の構造計画・設計を行うことができる。

Q 建築エンジニアリングのDXに関わる能力

建築エンジニアリング分野における活動特性を踏まえた情報技術のかたちや活用方法を理解することができる。また、目的に応じた建築情報環境を構築し、設計・分析・コミュニケーション・ものづくり等に応用できる。

R 分析・考察・提案能力

建築の基礎から応用までの学習過程で得られた知識・技術を確認し、それらを用いて問題を発見し、解決することができる。

I-17. 建築学部 建築デザイン学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、建築デザイン学科が示す以下の知識および能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。

A 自己啓発・自己管理能力

修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。

B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力

「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。

C 外国語コミュニケーション能力

国際社会の一員として、日常場面、職場、研究の場において必要な、基礎的な外国語のコミュニケーション能力を身につける。

D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力

数理・データサイエンス・AIの基礎を学び、論理的思考力を養うとともに、工学・技術の諸問題に応用できる能力を身につける。

E 図表を用いたコミュニケーション能力

実験および調査データの図表による表現方法を理解し、データを整理して示す能力を身につける。

F 基礎的な実験能力

実験に関する基本的な知識と技術を修得し、それらを活用して実験計画の立案と実験の実施、観察、考察、報告する能力を身につける。

G 問題発見・問題解決能力

修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して地域社会や産業界が抱える問題を発見し、解決する能力を身につける。

H コンピュータリテラシー

コンピュータに関する基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

I キャリアデザイン能力

建築関連分野における実社会の動向を理解し、大学院進学も含めて将来の進路を幅広く展望した上で、自らの進むべき方向を決定することができる。

J 建築デザインの基礎となる建築学全般の基礎的能力

建築デザインの基礎として求められる、使いやすさや美しさにかかわる建築計画、安全性にかかわる建築構造、快適さや健康にかかわる建築環境の三つの領域を主に学ぶことにより、建築デザインの基礎となる建築学に対する理解を深めることができる。

K 建築図面・文章等の基礎的表現能力

建築計画・建築構造・建築環境などで学んだ、建築や地域に求められる基本的な内容を、図面や文章等を使つて的確に表現することができる。

L 建築設計・計画に関わる能力

建築空間の用途に応じた計画・構成・意匠を理解することができる。さらに、建築や都市空間を調査・分析・評価する能力を養い、建築の歴史および最先端の動向を踏まえた機能的で美しい建築を設計することができる。

M 都市デザイン・まちづくりに関わる能力

都市や地域を形成する建築単体やその集合体としての建築群の役割や特性を、歴史的な変遷を含めて理解することができる。また、建築・都市を調査・分析し、都市デザインやまちづくりを構想・計画する手法を理解し実践することができる。

N 建築生産に関わる能力

建築構法および材料の特徴を理解することができ、安全で快適な建築空間を実現するために合理的な施工方法やそれに関わる各種法令について理解し、持続可能な建築の計画・設計を行うことができる。

O 建築・都市の環境・設備・GXに関わる基礎的能力

快適で健康的な建築を実現するために、建築の内外に形成される環境と人間との関係性を理解することができる。建築・都市における環境問題への対応をGX（グリーントランスフォーメーション）として捉え、その考え方を理解することができる。

P 建築構造に関わる基礎的能力

建築を支える構造の特徴を力学的観点から理解することができ、安全な建築を実現するために構造種別に対応した設計の基礎的な考え方を理解することができる。

Q 建築デザインのDXに関わる能力

建築デザイン分野における活動特性を踏まえた情報技術のかたちや活用方法を理解することができる。また、目的に応じた建築情報環境を構築し、設計・分析・コミュニケーション・ものづくり等に応用できる。

R 分析・考察・提案能力

建築の基礎から応用までの学習過程で得られた知識・技術を確認し、それらを用いて問題を発見し、解決することができる。